

関西支部 LMAG ニュース

—第9号—

2017年6月発行

IEEE 関西支部 LMAG
Secretary 森田 修三 (文責)

目次

- ・ LMAG (Life Members Affinity Group) とは
- ・ 1 2017年役員体制と木戸出 Chair からのメッセージ
- ・ 2 2016年活動報告
LMAG ピンバッジができました。
LMAG サロンの開催が始まりました。
- ・ 3 2017年活動計画
- ・ 4 IEEE 関西支部の現況



関西 LMAG Banner



関西 LMAG 会員ピンバッジ

LMAG (Life Members Affinity Group) とは

経験豊かなライフ会員の更なる能力向上、社会貢献、相互交流などを通じた会員の意見吸収・便益向上、IEEE 活動への寄与、などを目的に支部内におかれるローカルなユニットです。

IEEE Kansai Section Life Members Affinity Group (関西支部 LMAG) は、本部への申請によって 2012/6/18 付けにて東京支部について日本国内で二番目に設立されました。関西支部 LMAG は終身会員のステータスを持つ関西支部会員全員で構成され、支部内の他の委員会と同様の位置づけで活動しています。

2017 年の関西支部 LMAG メンバーは 153 名 (LF48, LS23, LM82 名) となっています。

1 2017 年役員体制と木戸出 Chair からのメッセージ

2017 年、2018 年の役員体制は下記となりました。

Chair 木戸出 正継 (元奈良先端科学技術大学院大学、前 Vice-Chair)

Vice-Chair

中村 行宏 (京都大学名誉教授、Life Fellow 会員、元関西支部 Chair)

小林 正明 (元三菱電機、Life Senior 会員、前 Secretary)

Secretary

森田 修三 (元富士通研究所、Life Senior 会員)



木戸出 Chair



中村 Vice-Chair



小林 Vice-Chair



森田 Secretary

木戸出 Chair からのメッセージ

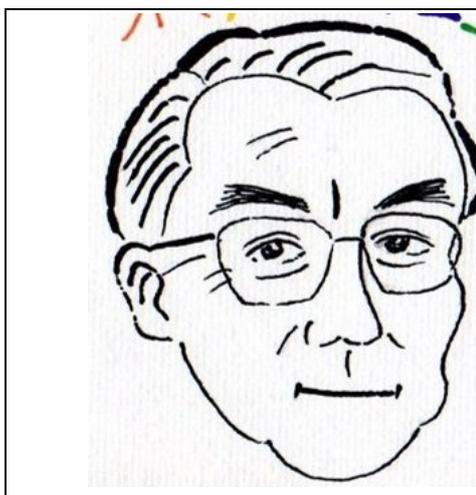
“LMAG 活動多様化への道、皆で考えながら走りましょう！”

Chair 木戸出 正継

LMAG 活動開始から参画し、5 年目になります。日本語で”終身会員同

好会”という原点に戻り、まず会員自らが楽しむ集まりにしたいと思っています。専門的な技術知識のみならず、雑学的な日常知識までを共有できる環境を構築し、同年代の友達の輪を広げ、後輩たち若者も気軽に集まる場にしていきます。IEEE 学会の名で見学できる特異な場所で、関連する先端技術の活用状況と社会展開の知識を知り、会員間の親睦をはかる現地講演会や、この年まで蓄積してきた専門技術の裏側情報、あるいは人間味を作り上げてきた趣味の世界情報、などの話題を肴に雑談円卓を囲むサロンを開催しています。皆様の興味と自己発信に対応するような活動機会にしていますので、皆様の参加をお待ちしています。

これからも自然と参加したくなるような企画を皆様と一緒に考えていきたいと思っています。イベント企画の提案にご協力をお願いいたします。例えば、この年になってやるのは恥ずかしいが皆でやれば怖くない、スマホ勉強・デジカメ撮影会・3Dプリンタ工作・CG アニメ制作・ネットゲーム参加・ロボット対話など、いかがでしょうか（参加費用を払ってでも、何か自分でできれば・身につければヤッタと思えるのでは）。専門理工学の分野から関西らしい文化歴史の分野まで、技術と趣味・研究と遊び・勉強とスポーツなど同時両面からの視点で、LMAG 活動を広げていきたいと思っています。



まずは興味あるところからイベントに顔を出していただき、オモロイ点を見つけ出し、友達の輪をつくり、ワイワイガヤガヤと皆様が集まりたくなる LMAG にしていきましょう。次の機会にお会いできる人達が増えることを期待しています。

2 2016 年活動報告

トピックス1 LMAG 会員ピンバッジができました。

LMAG ピンバッジを新規に作成しました。LMAG のイベント等に参加する際、LMAG 会員はこれを着用し、関西 LMAG としての一体感を高めています。



トピックス2 LMAG サロンの開催が始まりました。

気さくに集まって情報交換・技術交流が図れる LMAG サロンを開設しました。7 月に関係者で試行し、関西支部理事会の助言も得て、学生 SB (Student Branch) を巻き込んだ形の開催に向けて準備を進め、12 月に初回の LMAG サロンを開催しました。

中村 Vice Chair (京都大学名誉教授) から『私的・断片的な中国論：一私に飛び込んでくる「中国」事例』と題して話題提供いただきました。



“家電や半導体の事業に関して、中国企業の名前を耳にしたり、白物家電を中国企業に譲渡したり、シャープの鴻海傘下への組み込み、など、日本の産業界にとって憂うべき事態が起こっている。

教育の現場で感じることは、中国人留学生は日本人の学生に比べ、キャリアパスや目指すゴールを明確に描いていること。その一例として中国人女子留学生のレポートが紹介された。ただ、教育者としては、これからの中国の女性としての生き方について、仕事のキャリアにばかりに偏向せず、子育てを含めた豊かな人生設計も必要との助言を行った。 “

という内容でした。出席者からは、各々の経験や知見に基づく意見が出されていました。



集合写真

その他一般的な活動報告 (総会資料よりの抜粋)

活動4年目としてLMAG活動を活性化させるべく、2回のLMAG主催の現地講演会・見学会を、技術講演会の一環として関西支部TPC(Technical Program Committee)との共催で、10/12に奈良県立橿原考古学研究所、11/30に音羽電機工業株式会社(尼崎市)において、それぞれ開催しました。各講演会の後には有志による懇親会を開催し、今後の活動の進め方や教育の在り方等を論議するとともに、会員間の親睦も深めました。これらにより現地講演会というスタイルがいっそう定着しました。



奈良県立橿原考古学研究所にて



音羽電機工業株式会社にて

また、役員会は4回開催しました。第1回(2/2、キャンパスプラザ京都)、第2回(4/13、淀屋橋住友ビル)、第3回(7/6、京都コンピュータ学院)において、今後のLMAG活動の進め方、運営内容、LMAGサロンの開設について議論しました。第4回(11/8、淀屋橋住友ビル)は2017年役員を交えて開催し、今年度の活動のまとめと来年度の活動の具体化、とりわけLMAGサロンの実施内容について議論しました。

新たな活動を二つ行いました。一つは、LMAG ピンバッジの新規製作です。もう一つは、気さくに集まって情報交換・技術交流が図れる LMAG サロンの開設です。（これらについては、上記に記述しています。）

他組織との連携も密になってきました。8月のMAW（Metro Area Workshop）、10月のSB英語発表会、WIE（Women in Engineering）イベントにLMAGが参画あるいはLMAG会員が参加し、意見や見識を述べるなどしました。

6月と9月に「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて掲載の案内をしました。9月号では、2017-2018年の役員を公告し、期限までに別提案がなかったことから、2017年からの新役員体制が確立しました。

3 2017年活動計画と中間活動状況

活動5年目として、新役員体制の下、より活動を活発化させます。2016年度と同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会（現地講演会も含む）を開催いたします。LMAG サロンの活動を定着させることも大きな目標です。同時に YP（Young Professionals）や SB との連携・交流を、連携先の諸活動に LMAG 会員が参加してその活動を盛り上げることにより、活発化させていきます。また、「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて掲載の案内をする予定です。

すでに5月19日には、第二回の LMAG サロンを京都コンピュータ学院駅前校にて開催しました。

今回は理化学研究所 理事長の松本紘先生(元 IEEE 関西支部 Chair)をお招きし、『日本における理工学研究者・技術者人材の育成についての思い』と題して話題提供いただきました。ご講演の要旨は以下の通りです。

“人材育成、教育という話になるとどなたも持論をお持ちのことと思う。すべての人が現在までの経験に基づくよし悪しを言いたいのだろう。しかし、人材育成論で大事なものは、これからの社会がどうあるべきであって、それに即した人材とはどういう人材か、その人材のためにどのような育成がふさわしいのかという未来に対する視点である。

日本の科学技術力の低下が指摘されはじめているが、それは国が豊かになったことで、想像や創造する力が弱くなっているのか。人の能力が落ちてし

まっているのか。現状の分析と今後の社会像を織り交ぜ、皆さんで議論する出発点としたい。

約30名の方が参加されましたが、ソファを並べたまさにサロンのような雰囲気の会場で、ご講演を聴かせて頂き、終了後は参加者の方々との間で時間を超過してQ&Aが行われました。引き続き、場所を懇親会場に移し、更に談論風発、大変な盛り上がりの中で成功裏にサロンを閉めることができました。



今後の企画として、6月22日に京大防災研究所での現地技術講演会、秋には次の現地技術講演会を計画しています。ご予約に入れておいていただき、積極的なご参加のほど、よろしくお願いいたします。

4 IEEE 関西支部の現況

2016年12月末日時点の会員数は、2,258名で2009年以来2200名超を維持しています。関西支部傘下のChapterは13 Chapters、Student Branchは7 SBsとなっています。各Chapterの中には、Japan CouncilのChapter再編の

流れを受けて、関西支部 Chapter が含まれる Joint Chapter へ移行しているところもあります。

関西支部ゆかりのマイルストーンは、従来の7件に加え、関西電力(株)の蹴上発電所が新たに認定されて、計8件となりました。IEEE本部からのマイルストーン贈呈式が開催されました。

関西支部ホームページにも、現況をはじめ多くの情報が掲載されています。
(<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>) ”IEEE 関西支部 “で検索していただいてもすぐに見つかりますので一度ご覧下さい。

会員リニューアル手続きをお忘れなく

LMの皆さんの会費は無料ですが、RENEW処理は会員資格継続のために不可欠です！手続きを怠ると会員資格がなくなりますのでご注意ください。

まだ手続きがお済みでない方は、2017年の会員サービス及び刊行物の継続利用の手続きをお願いいたします。この手続きは、www.ieee.org/renew にアクセスして行うか、本部より郵送されたLM更新手続きの用紙で行うことができます。また、IEEE Life Members Fund へのご寄付の検討も併せてよろしく願いいたします。年間30万USドル以上のLife Members Fund 慈善支援は、各教育レベルにおいて工学・科学・数学への興味を増進させる活動や、電気・情報技術の歴史を残す活動、そしてIEEE ライフ会員の膨大な経験の活用などの目的に使用されています。

編集後記 関西支部LMAG事務局より

LMAG 事務局の平野です。2013 年以降継続して今季も事務局を務めさせていただくことになりました。引き続きよろしくお願いたします。

今年は気さくな LMAG サロンを軌道に乗せ、皆様と数多くお会いしたいと考えております。現地講演会の訪問先も種々考えてまいります。

皆様からの現地講演会の訪問先やイベントのご提案等は、私の学会メールアドレス k-hirano@ieee.org までお送りいただけますと幸いです。



事務局 平野



補佐 杉本

IEEE Kansai Section Life Members Affinity Group

Newsletter 2017 年 6 月発行第 9 号

発行 : IEEE 関西支部 Life Members Affinity Group

E-Mail: lmag-kansai@ieee-jp.org

(エルエムエージーです)